

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 **黎**



明 報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0031号
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成18年11月27日

会議は踊る・・・APEC首脳協議

空虚なAPEC議長声明

北朝鮮の核問題をめぐる六カ国協議の再開合意後、北朝鮮を除く五カ国がハノイで開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)の舞台で一堂に会した。

【日米と支韓の温度差】

六カ国協議を仕切る議長国のメンツを懸け、早期再開に動く支那に対して、五カ国の連携を優先し対北朝鮮の圧力を強めようとする日米両国、その溝を埋めようとする交渉が展開されたがお互いの思惑は複雑である。日米は北朝鮮の国際原子力機関の査察の受け入れ表明を六カ国協議再開の最低条件としている、この高いハードルで日米両国は、自国のメンツを重んずる支那に対抗した。



閉幕したAPECと安倍首相(前列中央)

一方、韓国の盧武鉉は枠組協議においても北朝鮮の核問題に対し「六カ国協議の枠組みと、その枠組み内での二国間協議で対処していく」という北朝鮮寄りの考えを表明して北朝鮮との二国間交渉には一切、応じないとする米国の姿勢に違いをみせつけた。

また盧武鉉は米国主導の拡散防止安全保障構想(PSI)に参加しないことも言及した。また北朝鮮の核が北東アジアの他の国々へ流れることを防止する原則は支持するとしながらも、実際の海上での検査などを実施することは留保すると言いつつたのである。これでは五カ国協議ではなく、韓国を除く四カ国協議でありこんなことでは対北朝鮮包囲網など築くことは出来ない。

いったいこの盧武鉉は同じ自由主義国家でありながらどこまで日米に対抗する心算なのだろうか？ 元を正せば同じ朝鮮民族の問題ではないか。スカッドミサイルがソウルに向いていると言つのに、この大統領では半島のみならず北東アジアの平和と安全を保持する事は出来ないであろう。

【うわべだけの強い懸念】
紆余曲折しながらもAPEC首脳会議は十九日午後、議長国であるベトナム大統領・グエン・ミン・チエットが北朝鮮の核実験に「強い懸念」を示し非核化に向けた具体的な行動を求めた声明を口頭で発表し、閉幕した。

声明は国連安全保障理事会の制裁決議の「完全な実施」が必要だとし、北朝鮮の核放棄を謳った昨年九月の六カ国共同声明の「完全な実施に向けた具体的かつ効果的な行動」を求め、六カ国協議の早期再開を要請している。

残留だがこんな声明では全く役に立たない、はつきり言えば玉虫色にちよつと色を足しただけである、これでは北朝鮮に圧力をかけたとはいえないのではないだろうか。

安倍首相は「六カ国協議再開の動きを歓迎するが、開催自体が目的ではない。北朝鮮の核やミサイルは脅威であり北朝鮮が非核化に向けた約束を果たす具体的な行動を取るよう国際社会が圧力をかけていく必要がある。北朝鮮が拉致問題でも誠実に対応しているとは思えない(中略)このような非人道的行為が許されないと北朝鮮に伝えることが重要だ」と拉致問題を抱える日本の主張を訴え、声明文に盛り込むことを強調した。

【声明文から外された拉致】
しかし拉致問題は北朝鮮を刺激したくない支那が反発し、声明文に記載されず単に口頭での議長声明にとどまった。ここでも北朝鮮の対応を巡り支那との温度差が改めて鮮明になり、交渉の難しさが浮き彫りになった。

五カ国の中で支那と韓国が北朝鮮寄りのスタンスを明確にし、ロシアも北朝鮮擁護派である事は想像に難くない。今こそ北朝鮮に対して強力な圧力をかけ、あわよくば北朝鮮の崩壊まで持つていく議論が必要である。最早、北朝鮮はアジアだけでなく、世界にとって、不要な国であることは間違いないのだから・・・

【愚鈍宰相・盧武鉉】
自由主義国家の一員でありながら、共産支那と同調してサヨクの言動を繰り返す盧武鉉には呆れるばかりである。APECでの盧武鉉の発言は、韓国が日米に弓を引く国家であることを世界に示し、今回のAPECは、朝鮮半島の不安定さと朝鮮民族の民度の低さを思い知らされ、虚無感だけが残ってしまった。

首相は、支那や韓国の裏切りを確認する為にベトナムまで行ったの、こんな事ならば逆に日本が協議をボイコットし、北朝鮮の自滅を待った方がよいのではないか、虚しい思いがしてならない。

正体見たり、真の虐殺者は支那だ！



世界を震撼させた虐殺映像

先日、亡命を試みたチベット人が中国人民解放軍に殺害されるといふ衝撃的な動画がインターネットを通じて世界に発信されたことをご存じの方も多いのではないかと思います。極めて辛辣な報道規制の敷く中国だから、このような動画が公開されるのは珍しい事で、厳しい監視の目を潜り抜けてヒマラヤ山脈を越え、インドやネパールに辿り着くチベット人は非常に希だが、その人数は毎年二丁三千人にのぼる。一方で人民解放軍による虐殺現場の目撃談は枚挙に暇が無い、殺害されたチベット人の数は想像を絶する事だろうと容易に推し量る事が出来ず。しかし何故か我国のメディアは、この由々しき問題を殆ど取り上げず、チベットで今何が起きているのか正確に把握出来ない状況にある。

【領土拡大主義とラサ侵略】
チベット問題が一般に知られるようになったのは一九五一年九月、人民解放軍がチベットの首都・ラサに侵攻してからだ。干渉や進駐は清朝の時代まで遡る。五十五の民族で構成される中国では政権が変われば歴史認識も何もかも真っ新になってしまいが、世界の中心は支那であるという中華思想だけは、支配する民族が変わっても改まらない。よって、領土拡大主義は中国共産党に引き継がれ、現在のチベット問題を生み出している要因となっている。

もともとチベットは国民の半数以上が僧侶で、チベット仏教の教義を主体においた国家だった。従って軍隊は近代兵器も備えていない形式的なものである。大戦後誕生した中華人民共和国は、朝鮮戦争陰に隠れて、チベットに軍事侵略を開始した。これが所謂ラサ侵略である。チベットは侵略の事実を国連に訴えたが朝鮮戦争に釘付けの各国は動けず、中共軍のチベット侵略は着々と進んだ。この紛れもない侵略行為を中国政府は、「チベットの平和解放」と呼び、恰も善行を施したかの様なプロパガンダを展開している。

【凄惨さを増す支那の弾圧】
「宗教はアヘンのようなもの」と極端に敵視する中国による

チベット人への弾圧は六十年代から七十年代には輪をかけて凄惨なものとなっていたのである。

チベットの九十五%の僧院を破壊して多くの僧侶を還俗させ、経典は焼き払い、仏像は溶解させてしまった。また僧院を中心とした社会の枠組を壊し、土地を取り上げて漢民族で勝手に分配し、遊牧民の放牧地を没収して定住させようとした。中国はこれを「封建農奴制からの解放」或いは「民主改革」など呼び、六百万人のチベット人に対して八万人以上の人民解放軍を送り込んで「民主改革」を強制したのである。

中共はチベットの歴史、伝統、文化を悉く否定して文化遺産を破壊し、侵略と改革の名の下に二百二十万人のチベット人を虐殺したのである。

【胡錦濤の笑顔の裏側】
その後、チベット亡命政府の報告もあり、国際的孤立を恐れた中国は、外国人の観光を認めるなど対外的には融和政策を執るようになったが、独立運動が再燃し、半中国の抗議行動が拡大していくと、中国は一九八九年三月、ラサに戒厳令を敷く事となった。この時の責任者が、現在の中国の国家主席胡錦濤である。胡錦濤がメディアに見せる笑顔の裏には弾圧によるチベット

ト人の多大な犠牲者がいるという事を忘れてはならない。一九九〇年五月に戒厳令は解除されたが、反中国的な行動に対する弾圧政策は今も変わらず、今回の動画流出事件に繋がっている。

【中国の植民地政策の実態】
産児制限と不妊手術の強制、はたまたチベットでの拷問と虐殺だけに留まらず、中共による植民地支配は確実に民族浄化と進んでいます。つい最近の青藏鉄路の開通は、世界で海拔最高、距離最長の鉄道としての一面だけが大きく取り上げられましたが、実際には住居地が過密になった漢民族の移民の効率化に拍車をかけるもので、チベットへ移住する漢民族は税金面で優遇を受け、高い給料をもらう一方、地元のチベット人から仕事を奪い、移住してきた漢民族が食べる小麦をつくるために遊牧民の土地が奪われ、移民により急激に人口が増えた結果、生態系までが破壊されていくのです。これも全て共産党政府によるものであり、以前はチベットの人口の九五%がチベット人であったが現在は約半数を漢民族が占めている。これは亡命、虐殺、産児制限によるチベット人の減少と漢民族の流入が原因である。

【中共の悪行を阻止せよ】



チベット人を虐殺する中共の兵士

これほど重大な問題を国際社会が野放しにしておくと根幹には、経済的な側面もあってマーケットとしての中国は魅力的なものであるのだから。しかし利益を追求することで失われる生命、文化を容認しても良い訳がない。

中国はマーケットの拡大を目論む先進諸国を受け入れる為に甘い汁を吸わせ、チベット問題に蓋をして、見て見ぬふりをさせ、封殺している。利益しか考えぬ先進諸国と一線を画して、我が国は毅然とした態度を示すべきだ。

五輪も万博も不参加、不支持を表明すれば良い。それを我々日本人だけでなく、外国諸国も経済の風見鶏とならずチベットにおける侵略や虐殺だけではない中共の悪行を阻止せねばならないと切実に思う。

編集部・吉田源太